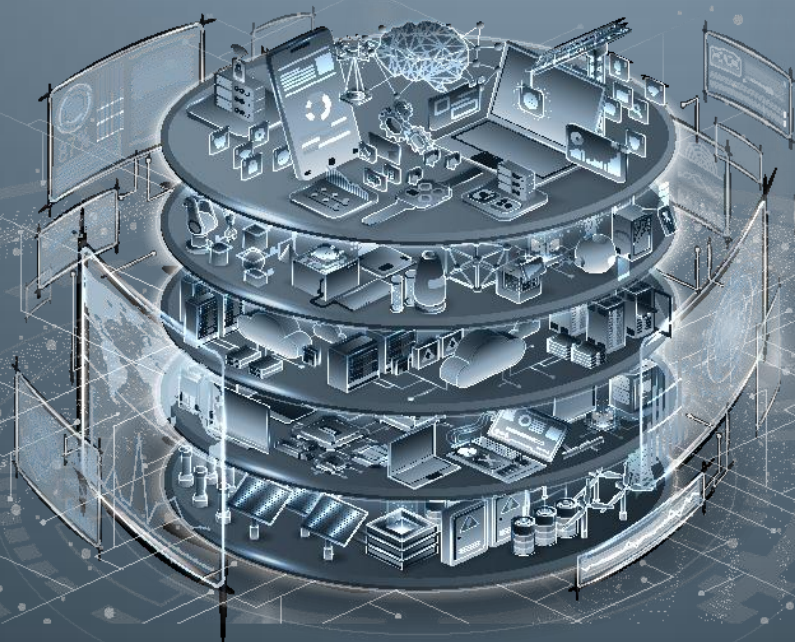


AI NATIVE EXPO 2027

AI前提時代の開発・実装・運用・統制・現場活用を探る



実施概要

会期 | 2027年6月9日(水)～6月11日(金)
会場 | 幕張メッセ
主催 | AI NATIVE EXPO 実行委員会

同時開催 |

Interop 27
Tokyo JUNE 9-11
MAKUHARI MESSE, JAPAN

DSJ 2027
デジタルサイネージ ジャパン

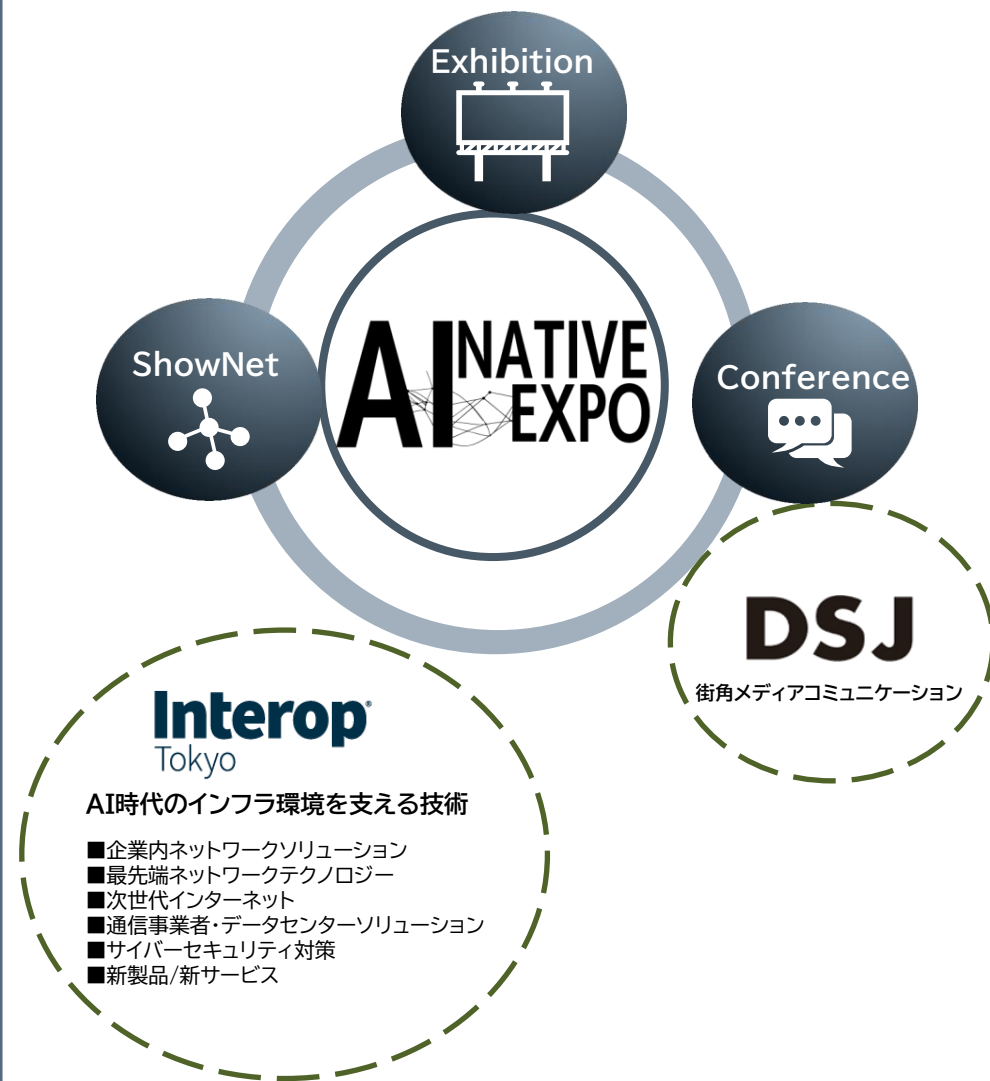
ご挨拶

生成AI、大規模言語モデル(LLM)、マルチモーダルAI、AIエージェントの進化により、企業のAI活用は「PoC」から「本番実装」へと大きくシフトしています。AIは単なる機能追加ではなく、開発、業務実装、運用、統制、そして現場活用まで、企業活動のあらゆるレイヤーに組み込まれ始めています。

第2回開催となるAI NATIVE EXPO 2027では、初開催で掲げた「本番で回るAI」というテーマをさらに発展させ、生成AI/マルチモーダル基盤、AIエージェント、RAG/ナレッジ統合、AIネイティブ開発、Evals/可観測性、Responsible AI/ガバナンスに加え、画像認識AI、Vision AI、Physical AIなどの現場AI領域までを取り込みます。

AIの「開発」「業務実装」「運用」「統制」「現場活用」を横断的に捉え、開発者、運用者、ガバナンス担当、事業責任者、現場部門が、AIを実ビジネスに定着させるための技術・知見・パートナーと出会う場を創出します。

AI NATIVE EXPOは、AIを“試す”場から、AIを前提にビジネスと現場を再設計するための専門イベントへと進化します。



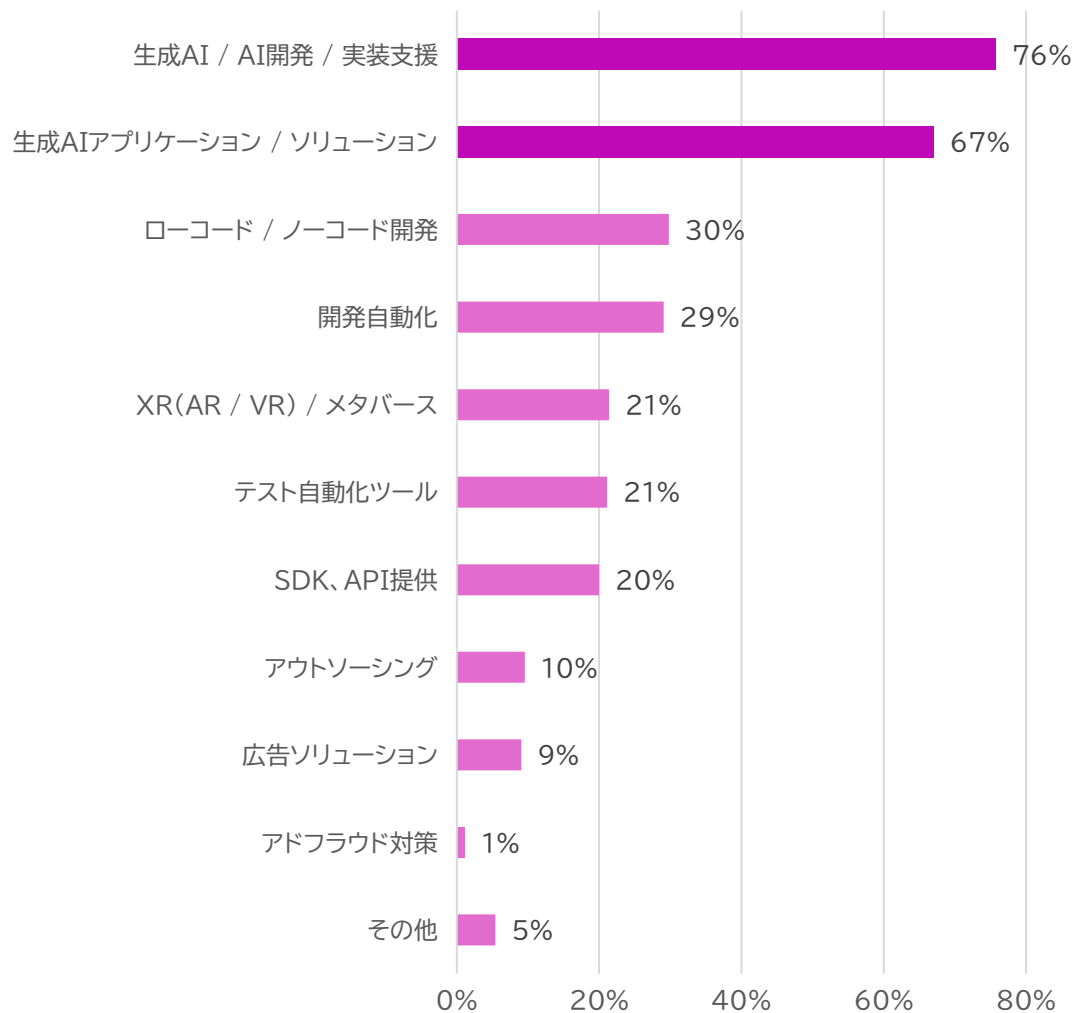
AI前提社会を支えるための専門展 AI NATIVE EXPO 2027とは...

会期	2027年6月9日(水)～6月11日(金)
開催時間	10:00～18:00(最終日のみ 17:00 終了)
会場	幕張メッセ(国際展示場 Hall3～Hall8 / 国際会議場)
来場予定数	約15万人 ※同時開催イベント含む
主催	AI NATIVE EXPO 実行委員会
運営	株式会社 ナノオプト・メディア
後援	日本Web協会、モバイル・コンテンツ・フォーラム、日刊工業新聞社、業界関係多数(予定)
同時開催	Interop Tokyo 2027、デジタルサイネージ ジャパン 2027
公式サイト	https://www.ainative-expo.jp/

APPS JAPAN来場者からもAI開発や実装などに関する興味が近年上昇 *2025年実績

興味分野

※複数回答可



イベントコンセプト

AIを“開発し、業務に実装し、運用し、統制し、現場で活用する”ための専門展示会

1. 開発

- ・生成AI / マルチモーダルAI
- ・AIエージェント
- ・PromptOps / コード生成
- ・ノー/ローコード
- ・UX/UI
- ・DesignOps

2. 業務実装

- ・RAG / ナレッジ統合
- ・業務SaaS×AI
- ・ワークフロー連携
- ・PoC支援
- ・部門別AI活用 / 業務自動化

AI INATIVE EXPO 2027

3. 運用

- ・Evals / 回帰テスト
- ・可観測性 / トレース
- ・モニタリング
- ・コスト最適化
- ・CI/CD / 変更管理
- ・ライフサイクル管理

5. 現場AI

- ・画像認識 / Vision AI
- ・Physical AI
- ・外観検査 / 異常検知
- ・顔認証 / eKYC
- ・自動運転
- ・店舗・施設AI
- ・製造・建設・医療・警備向けAI

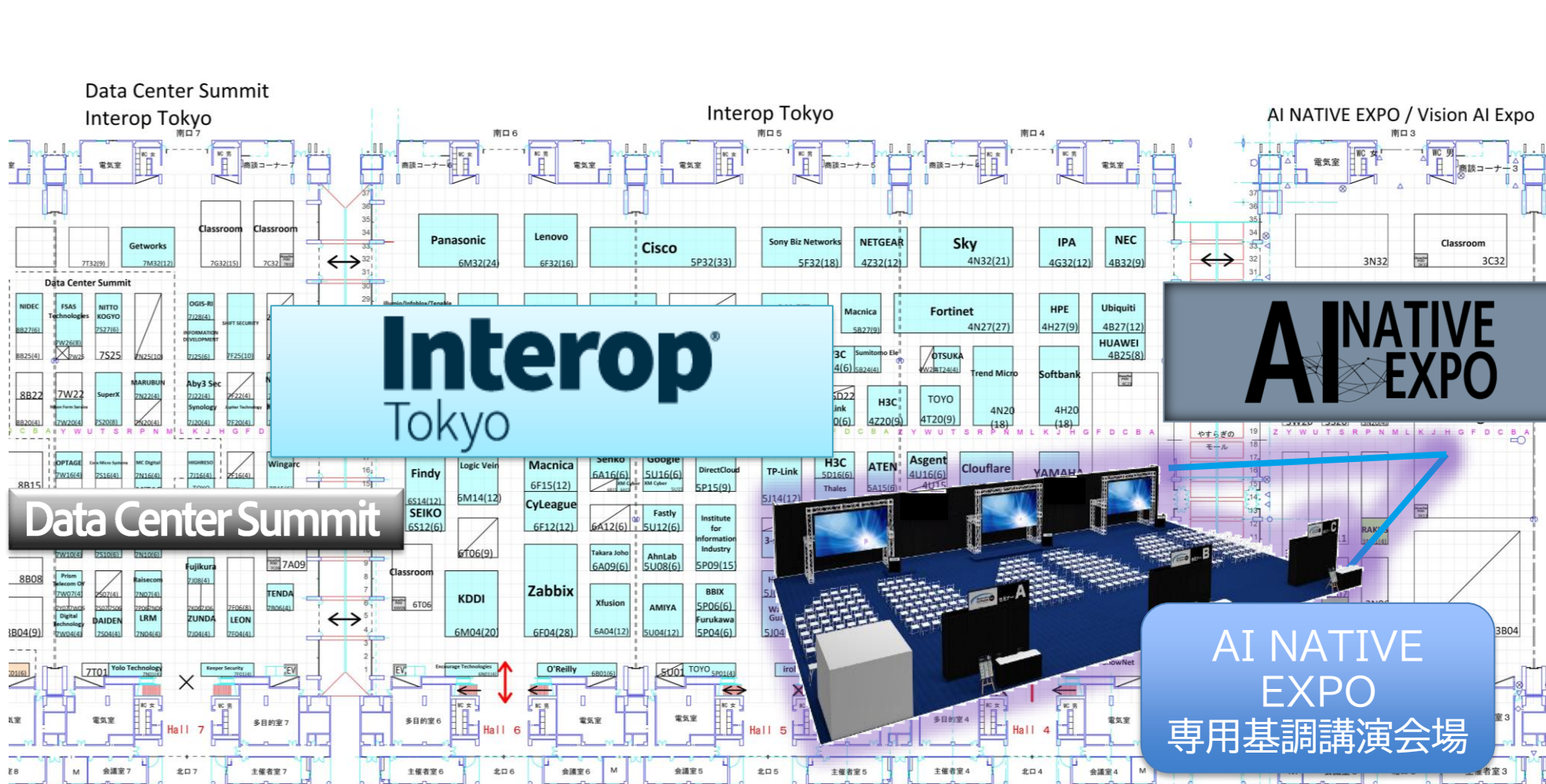
4. 統制

- ・Responsible AI
- ・実行時ガードレール
- ・権限・実行制御
- ・監査ログ / DLP
- ・レッドチーミング
- ・プライバシー / 法規制
- ・XAI / モデルリスク管理

画像認識AI Expoの領域を「現場AI」として、AI活用の実装フェーズも網羅

会場構成:

AIインフラ(Interop)×開発・運用・業務実装・統制(AI NATIVE EXPO)でAI前提社会を網羅



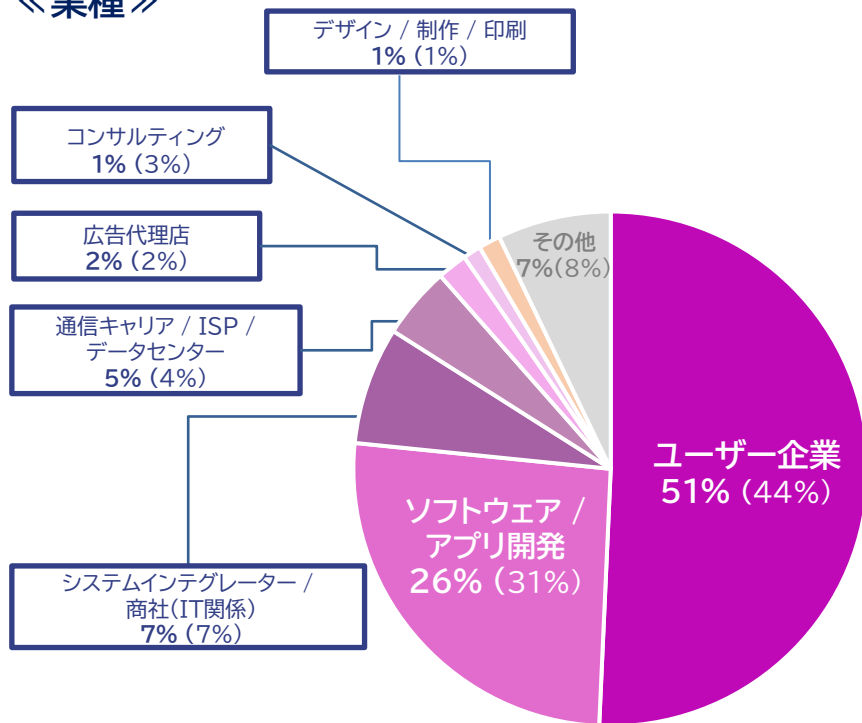
AI時代のインフラを支えるネットワーク構築・運用管理、
データセンター向けソリューション、サイバーセキュリティ対策

AI前提社会を支える
“開発・運用・業務実装・統制”

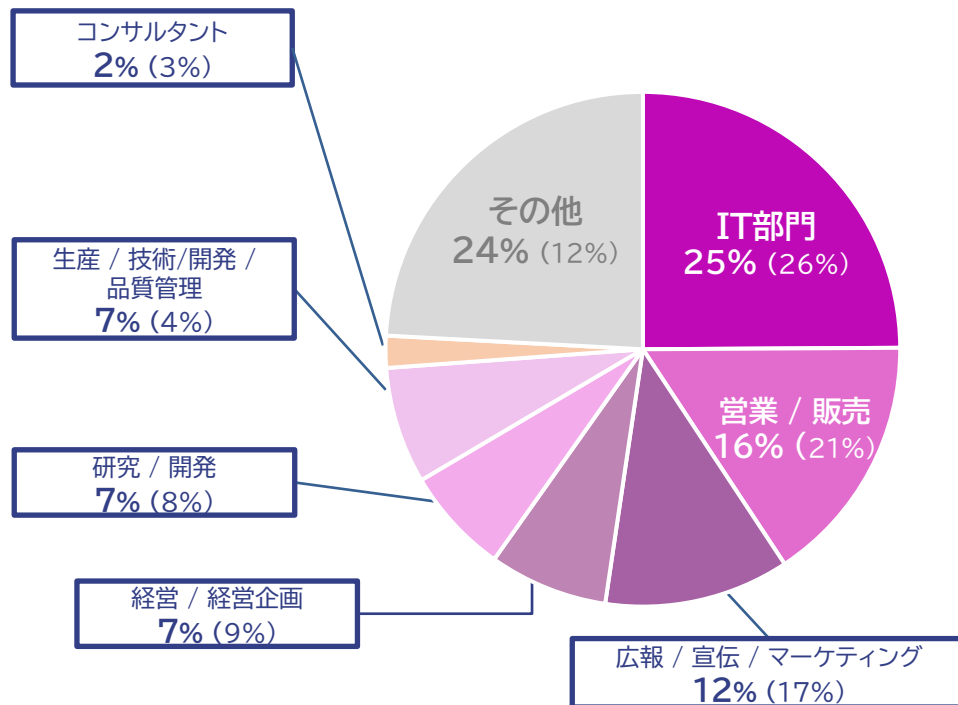
来場実績 ※前身イベントである【APPS JAPAN】の開催実績となります

2025年度実績 ※()内は2024年度実績です。

《業種》



《職種》



●ユーザー企業

製造業/サービス業/商社(IT関連以外)/小売業/金融・証券・保険/学校・教育機関/
物流・運輸/研究所(民間・公共)/官公庁・自治体/不動産・施設管理/協会・業界団体など

●IT部門

サーバーエンジニア/システムエンジニア/ネットワークエンジニア/
プログラマー/情報システム管理者

2025年開催実績

※前身イベントである【APPS JAPAN】の開催実績となります

6月11日(水)

>> 来場者数

40,544人
(38,459人)

天気:雨

6月12日(木)

>> 来場者数

45,285人
(40,629人)

天気:曇時々晴

6月13日(金)

>> 来場者数

51,046人
(45,394人)

天気:曇り

参加者数合計

136,875人
(124,482人)

※同時併催展イベントを含む
※()内は2024年実績

特別プログラム



ShowNetは最先端ネットワーク技術を利用した相互接続をすることで実現する、次世代ネットワーク構築プロジェクトです。出展各社から集まった製品、サービスを利用して構築します。構築したネットワークは出展ブースに広帯域なネットワーク接続環境として無償で提供されます。製品を持ち寄って構築に参加する、またはブースからの高画質なオンライン配信に利用するなど、ほかのイベントにはない効果的なアピール方法として活用いただけます。



Interop Summit

会期初日の夜に開催しているVIPパーティー
政府関係者、出展企業、学術団体から研究機関の
トップが参加し、交流の場をご提供しております。



公式WEBサイト

年間を通じて、多くのPVがあるオフィシャルWebサイト。
出展社情報、セミナー情報から主催社企画まで、最新の情報を
発信し、来場意欲を高めます。



告知施策

ハウスDBへのメール配信



自社で保有する約30万件のデータベースからイベントの来場対象をセグメント化し、EDMの配信を定期的に行います。配信はテキスト/HTMLの両形式にて実施し展示会やセミナーの見どころを紹介します。

集客力の高いゲストスピーカーによる講演

ユーザー企業/各種業界団体/官公庁・その他有識者など、業界をけん引するゲストスピーカーによる基調講演・展示会場内セミナーを実行委員にてプロデュース。最新事例や業界動向など、ほかでは聞くことのできない講演を提供することで、より多くの来場者の獲得を狙います。

◆ 2025年実績(一部抜粋) ◆

- ・(同) Hundreds 代表 / 「生成AIに育てられた第1世代 | 研究者 x SE」
Speaker 大塚 あみ氏
(株)角川アスキー総合研究所主席研究員、MITテクノロジーレビュー日本版アドバイザー / ZEN大学客員教授、コンテンツ産業史アーカイブ研究センター研究員
Moderator 遠藤 諭氏
「# 100日チャレンジ 毎日連続100本アプリを作ったら人生が変わった」の著者に聞く、生成AI時代のエンジニアの学び方・育て方
- ・エヌビディア(同)エンタープライズ事業本部
ビジネスデベロップメントマネージャー 中根 正雄氏
NVIDIA のデジタルヒューマンテクノロジーとデジタルヒューマンの未来

SNS

ナノオプト・メディア公式サイト、Facebook、X、YouTubeにて、みどころや会期中の速報などを日々掲載いたします。



メディアによるプロモーション

イベントテーマと合致する外部メディアにてリリースやWEBバナーによる告知を行います。さらに、メディアの保有するデータベースに向けたメール配信も実施し、新規ターゲット層へのリーチを図ります。

◆ 2026年度メディアスポンサー ◆ ※一部抜粋



AI NATIVE EXPO 2027

お問い合わせ先

株式会社ナノオプト・メディア
AI NATIVE Expo運営事務局 セールス担当
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-12-5 Uni-works新宿御苑3階
TEL:03-6258-0582 FAX:03-6258-0598
Email:sales-info@f2ff.jp